

***赤外線カメラ PICNIC 収蔵**

国立天文台ニュース No.31(1993年7月1日)の研究トピックスに「赤外線カメラ PICNIC の初観測から」という小林行泰氏の記事がある。この号の表紙(写真1)が PICNIC で撮影されたオリオン星生成領域の写真である。



写真1 国立天文台ニュース No.31 表紙

この表紙を飾っている写真を撮影した赤外線カメラ PICNIC が、天文機器資料館に収蔵された。PICNIC は宇宙科学研究所（現在の JAXA の一部）の 1.3m 望遠鏡に搭載されていたものである。執筆者の小林氏から天文機器資料館に保存して欲しいと申し入れがあり引き受けたものである。図 1 は PICNIC の内部構造、写真 2 はこの号に掲載された PICNIC の写真である。

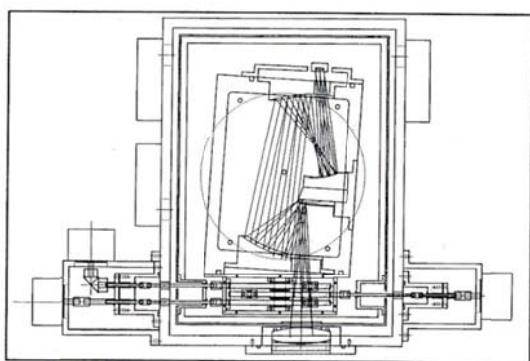


図 1 PICNIC の内部構成 液体窒素温度に冷却される

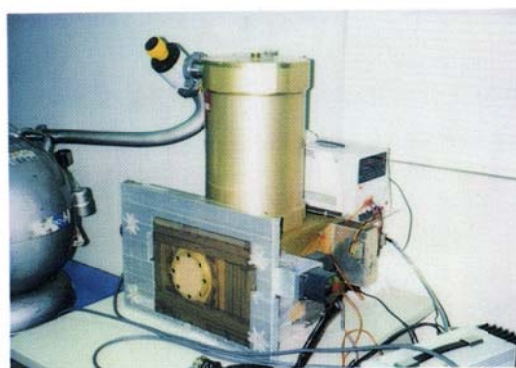


写真 2 PICNIC の外観 高さは約 60cm

図 1 PICNIC 構成図

写真 2 当時の PICNIC

PICNIC は現在まで宇宙研に保管されていたが、開発者のいる国立天文台に帰ってきた。受け入れた際の姿は写真 2 とは少し様子が違っていった(写真 3)。

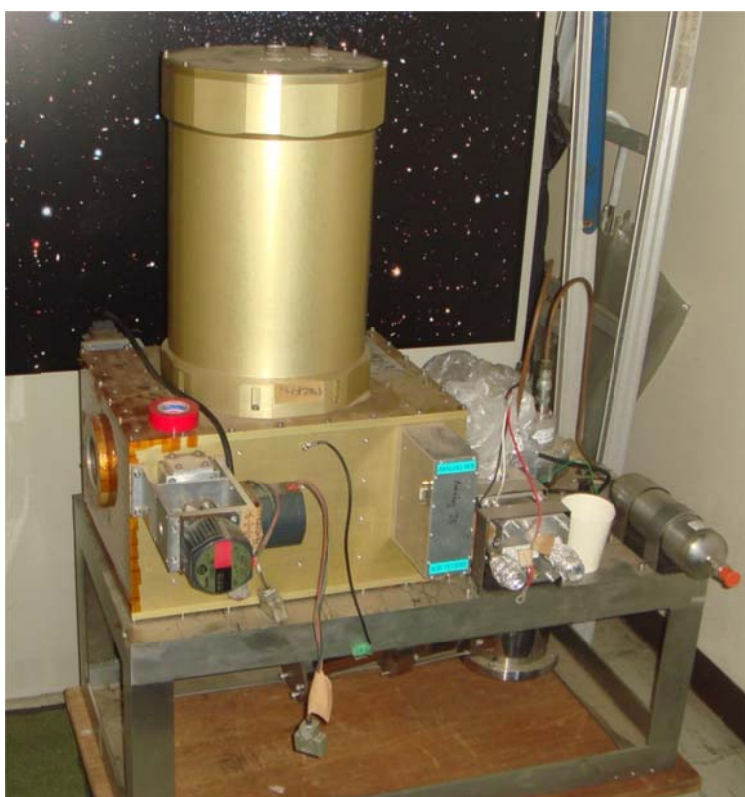


写真 3 天文機器資料館に到着した PICNIC

PICNIC を宇宙研から国立天文台に運んできたのは、開発者の小林行泰氏ご本人である。

PICNICについては国立天文台ニュース No.31 を参照されたい。

国立天文台ニュース No.31 には、国立天文台に赤外線天文学を根付かせた功労者である名古屋大学理学部に移られた佐藤修二教授のエッセイ「三鷹 5 年 7 か月半」が最初の記事として掲載されている。佐藤、小林両氏などの赤外線天文学での活躍が、ハワイに建設された大型光学赤外線望遠鏡「すばる」へと飛躍をしていく時期のことである。

この号には、平成 6 年度概算要求事項が載っており、特別設備費として大型特別整備費、大型光学赤外線望遠鏡(9-4)が載っている。「すばる」建設の 3 年時であったことがこの記事からも読み取れる。

佐藤教授らと赤外関係の実験室整備を手伝った筆者としても感慨深いものがある。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp